

平成29年7月14日

平成28年度 学校関係者評価報告書

学校法人後藤学園  
専門学校武蔵野ファッションカレッジ  
学校関係者評価委員会

学校法人後藤学園専門学校武蔵野ファッションカレッジ「学校関係者評価委員会」は、平成28年度自己点検・自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

1. 学校関係者評価委員

(「専門学校武蔵野ファッションカレッジ学校評価要綱」による選出)

- ・学校の専門分野における業界関係者（同第5条第2項第1号）  
井関 理 氏          株式会社レナウン人事部部長  
田中 大資 氏        株式会社クレヨン代表取締役
- ・卒業生（同第5条第2項第2号）  
佐久間 守平 氏      レジュイール 代表
- ・高等学校校長、進路指導担当者等（同第5条第2項第3号）  
山中 哲也 氏        東京学館浦安高等学校 教頭
- ・その他校長が推薦したもの（同第5条第2項第4号）  
金久保 薫子 氏      株式会社B 代表取締役

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	
<p><b>【現状と課題】</b></p>	<p><b>【現状】</b></p> <p>「3つのポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」を整備し、教育を行う側と受け手側の双方に理解が必要であると考え、常勤教員・非常勤講師・学生達、全員の共通理解を作っていった。そして、常勤教員・非常勤講師には改めて各教科の学習到達目標を提示し、目標と担当領域の理解を促した。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つのポリシー」の運用</li> </ul> <p>以前からの習慣で教員それぞれが自らの考えや思いに従い授業やクラス運営を進める状況がある。この部分を改善していかなければポリシーを設定しても、教員の理解と行動が具体的に現れてこない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルーブリック」導入</li> </ul> <p>短期で完遂できるものではなく中期的に取り組むべきものであると認識を改めている。</p>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つのポリシー」の運用（継続）</li> </ul> <p>教育目標・カリキュラム・就職・予算等、総合的に教育活動を運営していく組織構築が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ルーブリック」導入（継続）</li> </ul> <p>平成28年度は常勤教員の取り組みが中心であったが、非常勤講師の授業でも「ルーブリック導入」を進めていく計画である。具体的にどのように準備を進めていくべきか、非常勤講師とのミーティングの機会を増やし検討していく。</p>
<p><b>【関係者評価】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つのポリシー」及び「ルーブリック」の導入で到達目標及び担当領域が明確化されている。</li> <li>・「3つのポリシー」をブラッシュUPさせて、「方針・目標」が更に「具体的・客観的」な状態への進化を目指すのも一つと感じる。</li> </ul>

基準2 学校運営	
<p><b>【現状と課題】</b></p>	<p><b>【現状】</b></p> <p>教員の質向上について。</p> <p>本校の生徒たちは距離感が近く相談しやすいことを教員に望んでおり、教員の生徒との相談対応の能力を重要視している。学園で実施するメンタルヘルスケア研修では全教員が参加しカウンセリング能力向上に励んでいる。</p> <p>専門分野においては職業実践教育の視点から教員研修として、業界で活用されているファッション情報に関するセミナーへの参加や素材産地の視察、業界向け技術向上のセミナーへの参加、夏期研修期間を利用しての技術向上を目的とした作品製作の実施等、能力向上を図っている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員としての能力と学校運営や募集活動も行う幅広い業務運営能力が求められるのがファッションカレッジ教務部の業務である。教員ごとに得意不得意、専門性があり一律の業務は難しい面がある。</li> <li>・時代の変遷に伴い生徒を送り出す先のファッション業界の業務も変わり、学生が身につけるべき必要な能力も変わりつつある。その変化に合わせて教育が出来る様、能力開発が必要である。</li> </ul>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事評価を有効的に使い、学校や担当科目の課題を発見していく意識と課題を解決していける能力の開発に取り組む。</li> <li>・業界の変化をつかむ情報収集が必要である。企業との連携強化に取り組む。</li> </ul>
<p><b>【関係者評価】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ファッション」とは「服」だけの事でなく、「世の中の変化」のこと。先日お伺いして、しっかりと「世の中の変化への対応」を検討されている。</li> </ul>

基準3 教育活動	
<p><b>【現状と課題】</b></p>	<p><b>【現状】</b></p> <p>実践教育 ～ P D C Aサイクル (plan-do-check-act) の実践  14年前より実践教育を掲げ『期間限定ショップ【incubate】』  『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』  を複合的カリキュラムの成果発表としてP D C Aサイクルに  法って行ってきた。その効果により年々作品のレベルは向上  し、カジュアルファッションやリアルクローズの表現では一  定の成果を上げるものとなっている。また、成果発表自体の  運営を学生が主となり運営することで「社会人基礎力」向上  の機会としても生かしている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>以前に比べ学生の質が変わってきており、学生達の受けて  きた高校までの教育内容も進化している。社会が変わり価値  観も変わる中、今までどおりの教育の考え方や手法が通用し  なくなっている。社会状況に合った人材育成となるよう、  本学の特徴・強みを見極め、教育手法の更なる進化が必要であ  る。</p>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッション業界と整合性をもったカリキュラムとしていく  ため、企業との連携を活用していく。</li> <li>・社会人基礎力の評価と作品評価に対しルーブリックを導入  し、学生自身が成長を実感し、主体的に学習していく運営へ移  行させる。(前年度より継続しての施策)</li> </ul>
<p><b>【関係者評価】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社も「P D C A」を基に、計数管理及び業績評価を実施し、  「実行力強化」を掲げております。御校でも社会人基礎能力と  の融合を定義の基、適切に活動されている。</li> <li>・当社でも新入社員の質が変わってきています。密にコミュニ  ケーションを取っていかないと新人が成長しない状況です。</li> </ul>

基準4 学修成果	
<p><b>【現状と課題】</b></p>	<p><b>【現状】</b> 就職について アパレルプロフェッショナル科の就職率が向上したことは良い部分であるが、全員就職の見込みのあるファッションスタイリング科の就職率が落ちたことは問題である。 就職活動の遅れが出ないように生徒には早期に活動させる指導、内定獲得が難しい学生に対して本人の適性に合わせた企業紹介に力を入れることが必要である。</p> <p><b>【課題】</b> <b>【アパレルプロフェッショナル科】</b> 就職活動の始動が遅れる傾向にある。 <b>【ファッションスタイリング科】</b> 未決定の学生について、自身の適性と受験企業にミスマッチがあり、落ちてしまう状況が多々出てしまった。</p>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p><b>【アパレルプロフェッショナル科】</b> 授業での作品製作を優先的に考え行動することが要因であると考えられ、学業と就職活動を同時進行させる指導が必要である。 <b>【ファッションスタイリング科】</b> 本人の希望を重んじすぎ、適性に合わせた企業紹介が弱かった。内定獲得が難しい学生に対しては、学校側から本人の適性に合わせた企業紹介に力を入れる必要がある。</p>
<p><b>【関係者評価】</b></p>	<p>・学生と企業のマッチング等も検証し、手厚く対応されている。当社も就職支援の何らかのサポートが出来ればと思います。</p>

基準5 学生支援	
<p><b>【現状と課題】</b></p>	<p><b>【現状】</b></p> <p>学校全体としての退学率は「12.0%」と前年度からすると抑えた数値となり、目標として掲げた13%以内に収めることができた。</p> <p>退学抑止の施策として「クラス担任のコミュニケーション強化」と「学費納入の問題の早期相談への声かけ」を行い丁寧に対応してきた。特に学納金についての問題は財務部の協力もあり例年よりスムーズに問題が解決された。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>退学率は前年より抑えることはできたが、数値的にはまだまだ高く継続して退学率を下げる努力が必要である。生徒が抱える問題の早期発見が現状では一番の特効薬であり、教員が生徒とのコミュニケーションを丁寧に行っていく。</p>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p><b>【複数の教員で行う生徒への配慮】</b></p> <p>生徒の異変をいち早く察知し問題を大きくしない予防策を基本とするが、担任だけでなくそのクラスの授業担当者である教員も生徒の様子に気を配り、複数の教員で生徒の様子に配慮していく体制とする。</p> <p><b>【学費分納申請への促し】</b></p> <p>学納金についての問題は毎年多くなっている。保護者もどうしてよいか分からず未納分が嵩むケースもあったが、分納願いの書類が整ったことで保護者が制度を理解し、利用しやすい状況となった。財務部からの納入状況を元に問題が出そうな学生に対して担任から分納申請を促していく。</p>
<p><b>【関係者評価】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生指導上の問題が、実は教員側に問題がある場合もある。教員は常に社会常識や礼節を重んじた行動が必要です。</li> <li>・「関係性・コミュニケーション」の重要性を明確化し対応されています。</li> </ul>

基準6 教育環境	
<p><b>【現状と課題】</b></p>	<p><b>【現状】</b></p> <p>就職活動においてインターネットを利用しての応募手続き、書類提出が多くなり、それに応える設備を整備している。</p> <p>ファッション分野の学修として使用頻度の高いミシン設備については、老朽化し修理対応が出来ない機種となっていたが、平成27年度から3カ年計画で全てのミシンをリニューアルする計画で動いている。</p> <p>その他、教室の老朽化したエアコンをリニューアルし快適な学習環境充実をはかった。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>校舎をはじめ机、椅子といった備品類も老朽化している。</p>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p>必要備品に関しては予算組みし、リニューアルしていく。校舎については法人全体での検討事項であり、学園の法人事務局と協議していく。</p>
<p><b>【関係者評価】</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化等、適切に環境整備に対応されています</li> <li>・卒業生の意見として、在学中に不便さは感じていません。</li> </ul>

基準7 学生の募集と受け入れ	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <p>学校が抱える一番の課題は出願者獲得である。体験入学参加者と在校生との交流を図ることや、教員が一人の参加者に集中して対応したことが、歩留率向上に効果があったと分析する。数年前と比べ歩留率は向上しているが、残念ながら平成28年度は目標を達成できなかった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策として行った「在校生から学校の魅力が伝わる運営」は学生個人の接遇能力や参加意欲に左右され毎回同じレベルで参加者に対応していくことが難しい。</li> <li>・出願数増加を目指すには体験入学の参加者を増やすことがポイントである。高校の進路ガイダンスに出向いた際に、ファッション分野を希望していても本校の存在すら知らない高校生も多い。</li> </ul>
<p>【改善のための方策】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生から学校の魅力が伝わることは有効である。生徒の接遇能力の安定化に向けた施策を講じる。</li> <li>・SNSやブログ等を利用した教務部からの情報発信にも力を入れ知名度向上に努めたい。</li> </ul>
<p>【関係者評価】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS等の活用の「具体策」が今後は不可欠と認識します。</li> <li>・在校生の参加意欲を高める施策を検討した方がよいと思います。</li> </ul>



基準8 財務	
【現状と課題】	<p><b>【現状】</b></p> <p>18歳人口減少の影響を考慮すると大幅な収入増は難しい状況である。教育機関といえども収支均衡が望ましい。学園では予算制度の見直しとして予算委員会が立ち上がり適正な予算分配を図っている。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>教育機関といえども収支均衡が望ましい。</p>
【改善のための方策】	<p>収入増のための入学者を増やす努力と予算削減のため、優先順位を精査した予算組みと予算執行を行う。</p>
【関係者評価】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状と課題を認識の上、適切に運営されています。</li> </ul>

基準9 法令等の遵守	
<p><b>【現状と課題】</b></p>	<p><b>【現状】</b></p> <p>文科省委託事業「分野別第三者評価」を試行として受ける機会を得た。試行とはいえ産業界、同分野校から厳しい視点での評価であったが、結果は「職業実践専門課程として適切な運営がなされている」と評価を受けている。特に法令遵守については、学校法人として情報公開も時期、内容ともに的確になされていると高い評価を受けた。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>教育の質保証として継続していくことが必要である。自己評価、学校評価の向上と継続が必要である。</p>
<p><b>【改善のための方策】</b></p>	<p>第三者評価は教育の質保証として継続して受けるものである。数年後に評価機構の第三者評価受審を検討する。</p>
<p><b>【関係者評価】</b></p>	<p>・「分野別第三者評価」からも高評価を受けており、適切に対応されています。</p>

基準10 社会貢献	
<p>【現状と課題】</p>	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊島区主催のよさこい祭りやソメイヨシノ親善大使の審査員としての協力を継続して行っている。また、豊島区の関連の文化事業団体、財団法人としま未来文化財団とのパイプも出来ているので、今後も学校の特性を生かした地域協力を継続して行っている。</li> <li>・豊島区専修・各種学校協会（豊専各）や東京都専修・各種学校協会（東専各）に理事や評議員を派遣（豊専各の事務局を本学園で担当）。</li> <li>・豊島区の文化事業『国際アート・カルチャー都市実現』のための特命大使として理事長、本校校長が就任。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>学園で掲げる人格教育に重なる内容であると学校では捉え、ボランティア活動や地域社会への貢献の意識を育成する仕組み作りが必要と考える。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>『人格教育』の一環といえる内容であるので、カリキュラムに取り入れることを検討。尚、学園として『人格教育』の具体化に向けた委員会を設置し取り組みを継続中である。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>・「人格教育」に基づき、適切に検討・対応されています。</p>

以 上